

「人」を源泉とした価値創造

博報堂DYグループにとって最大の資産であり競争力の源泉は、クリエイティビティを発揮する人材です。当社では、①粒ちがいの能力を持つ多様な「個」の力を引き出す、②互いに高め合う「チーム」の力を引き出す、③高度なクリエイティビティを生み出す、という3つの観点から人材育成を推進しています。具体的には、社員一人ひとりの自発的な成長を促す幅広い学習機会の提供や、共創する組織カルチャーの醸成、生活者発想をもととしたクリエイティビティの向上に取り組んでいます。

各グループ会社は上記3つの観点を踏まえた上で、それぞれの事業特性に沿ったユニークな人事制度や研修体系を構築しています。さらに、グループのシナジーを創出するための施策として、グループ会社間の人材交流や、グループ横断での経営層・若手選抜型研修なども実施しています。

粒ちがいの能力を持つ 多様な「個」の力を引き出す



社員一人ひとりの潜在的な能力・感性を引き出し、強みを伸ばしていく。自身の能力の現在地を把握し、事業変化に即応できるよう、幅広い学習機会を提供する。

互いに高め合う 「チーム」の力を引き出す



多様な強みを持つ「個」の力を掛け合わせることで「チーム」としての力を最大化させ、生活者、企業、社会をつなぐ成果を出すための土壌＝共創カルチャーを豊かにする。

高度なクリエイティビティを 生み出す



日々複雑化する課題に対応するため、深く洞察し、問いを立て、思考を深める機会をつくる。その体験から新しい価値を生み出す高度なクリエイティビティが生まれる。

「人」を源泉とした価値創造

キャリア入社者座談会

博報堂DYグループの 未来をつくる、 多様なプロフェッショナルが語る 「可能性」と「やりがい」

広告という領域を超え、テクノロジー、グローバル、インキュベーションといった多岐にわたるフィールドで新たな価値創造に挑む博報堂DYグループ。その変革を牽引する、多様なバックグラウンドを持つ4名の社員が集まり、入社後の実感や仕事の醍醐味、そして未来への展望を語り合いました。

「広告代理店」のイメージを超えて。 入社の決め手となった魅力

菊地 正直に言うと、入社前はテレビCMなどを手掛ける華やかな「広告代理店」というイメージが先行していました。

本田 私も全く同じですね。もともとメーカーで技術畑を歩んできたこともあり、「広告代理店」というクラシックなイメージや、「クリエイティブな会社」という一般的なイメージを持っていました。しかし、前職でM&Aの担当になった際に他



社をベンチマークする中で、当社グループがM&Aを活用して、テクノロジー領域も含め事業ポートフォリオを大きく変革させていることを知りました。この変革期にある環境は、まさに私の強みや経験を活かせる舞台だと感じ、挑戦を決意しました。

菊地 そのイメージの変化、すごく共感します。私も、今の上司と話す機会があってイメージが一変しました。当社グループが広告事業の枠を大きく超え、未来の社会基盤をつくるインキュベーション事業に本気で挑戦していると聞き、衝撃を

受けました。最先端の技術が社会に浸透し、文化となるためには、生活者とのインターフェースに関する深い知見が不可欠です。その本質的な価値を持つ当社グループが、自ら事業創造の主体になろうとしていることに強い感銘を受けるとともに、社会的な意義も強く感じました。

豆谷 少し違う観点かもしれませんが、私もその変革への意志に惹かれた一人です。募集要項にあった「生成AIの社会実装」というキーワードに強い魅力を感じました。当時はまだChatGPTが登場する前で、いわゆるIT企業ではない当社グ

「人」を源泉とした価値創造



グループが、AIを含めた先端技術の潜在的な可能性を見抜き、次世代に備えているという事実に関心を持ちました。

中田 私も具体的なキーワードに惹かれました。前職がメーカーだったので、「生活者発想というワードがとても共感でき、実際に購買につながるような取り組みを提案できるのではないか？」と感じていました。メーカー・リテール双方のより幅広い業務に挑戦できる環境に魅力を感じたのが入社の一きっかけです。

豆谷 私も前職では音声AIという特定領域の業務が多かったので、多種多様な産業や企業と関わることにワクワクしました。広告を通して日本や世界に広く働きかけてきた当社グループには、まだ自分が経験したことのないスケールの大きい仕事があると思いました。そうした環境で成長しながら、大きな仕事に挑戦したいと思いました。

入社して実感した、博報堂DYグループの真の強み

本田 入社して改めて実感した強みは、やはり「人」そのものの力です。人だけで今までこれだけクリエイティブな価値を生み出してきたのは驚異的だと感じました。創業130年以上の歴史の中で積み重ねてきた成功と失敗の経験こそが、持続的に成長していくための重要な資産なのだと実感しています。

豆谷 その「人」の力が、私が感じる強みである「別解を出す力」につながっていると思います。入社前は漠然と「クリエイティブな会社」というイメージでしたが、入社してみると、実際に自分は「何が面白いと思うか？」という視点が要求され、尊重されます。そして、面白いアイデアで終わらせず、裏付けや道筋を示して人を巻き込み、責任を持ってやり遂げる実行力が伴っていると感じます。

中田 まさにその「人」の力と「別解を出す力」があるからこそ、「0→1」のような何かを生み出す業務が非常に多いと思います。前職では既存のものを伸ばす戦略が中心でしたが、ここでは自分の考えが形になっていくプロセスを数多く経験できます。

豆谷 加えて、幅広い業界や領域に強固なネットワークを持ち、多様なビジネスパートナーと協働できる点も大きな強みです。単に広告領域にとどまらず、社会全体の課題解決に関わる可能性が広がっており、これは当社グループならではのアセットだと実感しています。

菊地 豆谷さんのおっしゃる通りです。社会のインサイトを捉え、未来の文化をデザインし、社会全体の機運を醸成するア

プローチは、当社グループだからこそ可能な価値提供です。その価値提供を支えているのが、長い歴史の中で築き上げてきた広範なネットワークです。企業はもちろん、官公庁やアカデミア、海外機関に至るまで、多様なステークホルダーとの深い信頼関係が、社会全体を巻き込む大きなうねりを生み出す基盤となっています。

中田 本当にそうですね。「0→1」の業務を遂行するにあたって自分だけでは分からない、何かを相談したいと思った時、社内やグループ内に必ず対応できる局や組織があり、グループ内で完結させられるので、どんな案件でも「博報堂さんにお任せすればいいね」と言っていただけることが多いです。

「個」の意志が尊重される環境で感じる、仕事のやりがい

菊地 個人の強い意志さえあれば、いくらでも仕事の幅を広げていけるカルチャーに最大のやりがいを感じています。一人ひとりが「今年何をしたいか」を起点に部門の年度方針をつくり上げていくので、「やらされ感」が全くありません。自ら決めたことだからこそ、最後までやり抜きたいという当事者意識が強く芽生えます。

豆谷 意志が尊重されるカルチャーは私も感じます。その上で、自分一人では到底実現できないようなスケールの仕事を、高い能力を持つ仲間と力を合わせて進められることも大きな喜びです。

中田 自分が携わったものが形となって世に出て生活者の方々に届いて結果が出た時は、クライアントに貢献できたとい

「人」を源泉とした価値創造

うだけではなく、生活者の日々の暮らしを少しでもより良くできているという実感が沸きます。

本田 私はグローバルという少し違った視点ですが、根っこは同じかもしれません。担当する20社以上の海外グループ会社は、それぞれ文化も成長ステージも異なります。粘り強い対話を通じて最適な解決策をともに導き出すのは困難な道のりですが、それを乗り越えた先で仲間から感謝の言葉をもらえる。その言葉こそが、私の原動力になっています。

多様な「粒ちがい」の才能が響き合う 組織カルチャー

本田 当社グループはまさに「粒ちがい」な人材の宝庫ですね。多様な才能が集まっており、特に秀でているのが、単一ではなく2つ以上の専門領域を掛け合わせることで価値を生み出す、「専門性の掛け算」を体現した人材の多さです。この個々の能力の高さが、組織としてのアウトプットを、より早く、より質の高いものへと引き上げているのだと思います。

中田 本当に多種多様にわたるバックボーンを持った方が在籍されており、新しい案件を担当するたびに新しい人と出会えるのが楽しいです。粒ちがいを大切にしているのが実感できます。その中でも、粘り強い方が多い印象です。ローンチ直前まで「もっと良くできないか」とブラッシュアップを重ねる姿勢にはいつも刺激を受けますね。

豆谷 分かります。その粘り強さは「一瞬に込める全力」という姿勢につながっている気がします。また、多くの社員が自

分の趣味や興味を大切にしている、「好き」が発想や仕事の源泉になっているように思います。こうした個性が響き合うように、横のつながりも強く、「このテーマに詳しいなら一緒にやろう」と自然に声を掛け合えるフラットな関係性が築かれています。

菊地 豆谷さんが言うように、一人ひとりが自身の専門領域における確固たる「美学」を持ったプロフェッショナルの集団だと感じます。面白いと感じたことに対しては、自身の役割や立場にとらわれず、どこまでも深くのめり込んでいく知的好奇心の強い人が多いのが特徴です。

それぞれの場所から描く、 博報堂DYグループの未来

豆谷 生成AIの登場によって、テクノロジーはこれまでになく人類のクリエイティビティに大きな影響を与えうる存在になったと確信しています。私自身、テクノロジーを通じて人の発想力を引き出し、面白いアイデアを形にし、社会をより豊かにしていくプロセスに関わることを最大の喜びとしています。その観点から、グループの業務を効率化・高度化すること、テクノロジーを活かして新しい事業価値を生み出すことも、いずれも重要な挑戦だと捉えています。

菊地 私の長期的な目標は、当社グループが触媒となり、産業界、官公庁、アカデミア、さらには海外のパートナーをも巻き込んだ、オープンな「インキュベーションエコシステム」を構

築することです。そして、生活者の価値観を変革するような、真に価値あるテクノロジーを1つでも多く社会実装し未来の社会をデザインしていきたいです。

本田 私はまず、現在の役割で確かな成果を出すことを第一に考えています。事業と経営の「つなぎ役」として、1つ1つの案件を確実に成功に導くことがすべての基本です。将来的には、そうして築いた信頼関係を基盤に、グループ全体の成長につながる新たな機会の創出を後押ししたいと考えています。

中田 私は、より生活者の日常に密着した業務に挑戦していきたいです。リテールメディアだけでなく、メーカー・リテール双方の支援を通して新しいソリューションを生み出す業務にもチャレンジしたいですし、自分自身が好きなものやサービスをより多くの方に知っていただき手に取っていただくような経験もしてみたいです。生活者の暮らしを少しでもより良くする、そんな仕事にこれからも携わっていきたいです。

